



広報 つがる

2009
2月号
No.86

市の人口と世帯数(平成21年2月1日現在)人口38,279人(男18,231人・女20,048人)世帯数13,395世帯

ママと楽しい手遊び

就学前の子どもと保護者が参加しての「あそびの広場」が1月13日、木造地域子育て支援センター(ひなた児童会館内)で開催されました。参加した親子連れは、動物体操で体を動かしたり手遊びを体験するなど楽しい時間を過ごしていました。



市議会だより

12月定例会…14～21ページ



つがる市消防団 出初め式

市民の生命と財産を守る「火消し魂」

新春の恒例行事である「つがる市消防団出初め式」が1月5日、57分団約900人、消防車両59台が参加して松の館駐車場で開催され、火災のない安全・安心なまちづくりへの決意を新たにしました。

式に先立ち、福島市長はじめ箱田鉄雄消防団長や消防団幹部らが、三新田神社で無火災祈願を行いました。

午前9時40分から行われた式で消防団員は、市議会議員、県議会議員、消防関係者などの見守る中、観閲者の福島市長から服装の点検を受け、市役所前の市道を勇壮に分列行進しました。

分列行進終了後は、会場を松の館に移して式典が行われ、福島市長が「消防人としての誇りを持ち、災害に即応できるように心身を鍛え、共に市民の信頼と期待に応えてほしい」と式辞。箱田団長が「日々の訓練を積み重ね、災害の最前線で活動することが私たちの任務である」と訓示しました。

また、30年以上にわたり消防団活動に寄与して勇退した団員や優良団員、優良分団の表彰も行われました。



無火災を祈願する箱田団長



市役所前の道路を走行する59台の消防車両



優良分団として表彰された皆さん

新年祝賀会

多くの市民が出席し、新年を祝う

平成21年丑年。輝かしい希望に満ちた新年を迎え、平成21年新年祝賀会が1月4日、市民ら約270人が出席して松の館で盛大に開催されました。

また、祝賀会には多くの来賓も出席し、木村太郎衆議院議員、竹内黎一元衆議院議員、三橋一三県議会議員が代表して祝辞を述べ、宮本純一商工会長の乾杯で祝宴が始まり、出席者は新年のあいさつを交わっていました。

年頭のあいさつで福島市長は「非常に厳しい財政状況ではありますが、住民サービスの低下や負担の増加を避けつつ、社会情勢に即応した組織づくりと効率的な行財政運営を検討し、農業振興、地域医療対策、生活環境対策、少子高齢化への対応、教育環境や福祉の充実、市街地の活性化等に取り組み、市民が安全で安心して暮らせる様々な施策を推進して参ります」と述べました。



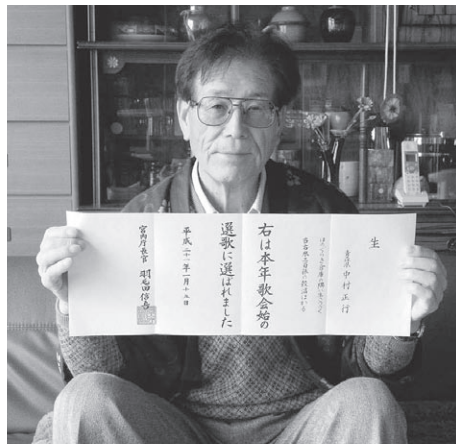
年頭のあいさつをする福島市長



新年のあいさつを交わす出席者

歌会始2年連続入選

全国4人目「人生最大の喜び」



入選証書を手喜びの笑みを浮かべる中村さん

た経験を生かし、大量に余り邪魔物扱いされ、倉庫の隅に積み上げられた古古米と自分を含めた高齢者の境遇を重ねた気持ちで込められています。

儀式が終了すると入選者たちは「連翠（れんすい）の間」に案内され、天皇、皇后両陛下との懇談が行われました。天皇陛下は入選者一人ひとりにお声を掛けられ、中村さんには「穀温」の意味などを尋ね、会話を交わしたそうです。また、皇后陛下からも高齢である中村さんを気遣い「椅子におかけになってもよろしいですよ」とお言葉を掛けられたそうです。

宮内庁は来年のお題を「光」と発表しています。中村さんはすでに歌の原文が出来上がっているようで、「来年は応募回数10回目という節目になります。故郷を見つめ、自分を育ててくれた古里を大事にする歌を応募したい」と意気込みを話していました。

新春恒例の宮中行事「歌会始の儀」が1月15日、皇居・宮殿「松の間」で行われ、厳粛な雰囲気の中、2年連続して歌会始に入選した中村正行さんの歌が天皇、皇后両陛下の前で披露されました。

今回の歌のお題は「生（せい）」で一般応募総数21,180首の中から10人が入選。2年連続して栄誉ある入選を果たしたのは全国で4人目。入選した中村さんの歌は

ほのぐらき倉庫の隅に生まつく古古米
二百俵の穀温はかる

農協で米の保管業務などに携わつ

プロフィール

中村正行（なかむらまさゆき）80歳
（車力町屏風山在住）
昭和47年青森県文芸新人賞受賞、第18回角川短歌賞受賞、平成20年歌会始に青森県人として12年ぶり7人目の入選